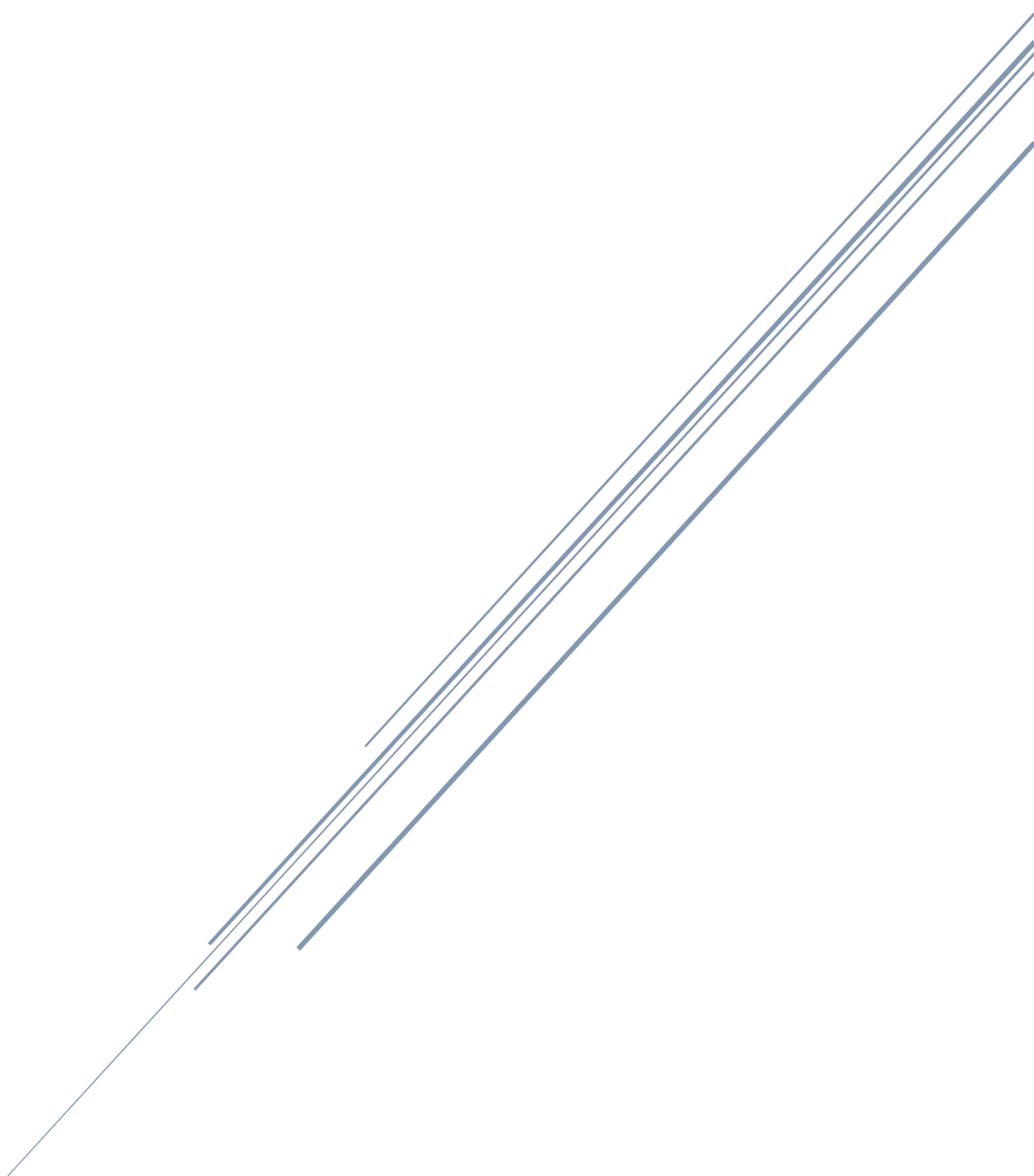


事業報告書

令和 5 年度 松風荘



☆事業報告書の作成にあたり

令和5年度は、新型コロナウイルスが、5類になった影響もあり、コロナ以前の様々な活動が出来る様になりました。夏休みの行事なども、制限なく行う事が出来、施設全体でのハイキングなども実施出来ました。諸事情があり第三分園が転居致しました。転居先においても、転居前と同一学区でもあるので近隣の方々からも暖かく迎え入れて頂き、新たにスタートをきる事が出来ました。

地域との触れ合いの一環としてバザーが行われています。令和5年度は、4年ぶりに制限のない中での開催となりました。地域の方々も非常に喜んでおり、活気あふれた一日でした。

全体会議については、職員数の増加により、今年度も外部の会議室を利用して行われました。全体会議にはペーパーレス化が定着しつつあります。タブレットを利用した会議、研修も職員さん達も慣れてきました。研修については、コロナが終息しつつあり、対面式が多くなりましたが、on-line研修も併用しながら行った結果、例年より多くの研修を各職員さんが受講できました。

令和5年度初めて、松風荘において措置延長児童を見相より認めてもらいました。今回の経験を踏まえ、今後も標準化をしていきたいと考えています。

重点方針総括

「松風荘として一体感を持った支援を目指そう」 2.62

○丁寧な意思疎通を行う 2.76

○報連相の重視 3.07

○業務をひとつひとつチームで確認する。 3.18

○若手職員の意見を吸い上げる。 2.57

○よりよい支援のための話し合いの場を作る。2.85

○積極的に自分の思いを伝える。2.47

○職制に関わらず、お互いに批判を受け止める 2.65

○内容が伝わっているか確認しあう。 2.72

○伴走型支援 2.82

子どもに迎合するのではなく、常に寄り添う支援を行う。

○多職種との連携を強化 3.49

事務・心理・看護師・調理員等情報を共有し、連携を強化する。

今年度の総括

令和5年度は、一体感を持った支援を目指すことを重点方針に全職員からの、アンケートを実施し、数値化したものが上記3項目です。コロナ禍による意思疎通が次年度の課題である事が数値上現れていました。これらを踏まえ、令和6年度は丁寧な意思疎通を図っていききたいと考えています。

令和6年3月吉日

社会福祉法人共生会 松風荘 施設長 村松信知

☆目次

| | |
|---------------------|--------|
| 生活支援事業報告書..... | - 4 - |
| 本園..... | - 5 - |
| 第一分園..... | - 5 - |
| 第二分園..... | - 5 - |
| 第三分園..... | - 5 - |
| 家庭支援事業報告..... | - 6 - |
| 自立支援強化事業報告..... | - 6 - |
| 食生活事業報告..... | - 6 - |
| 心理支援事業報告..... | - 7 - |
| 委員会報告..... | - 8 - |
| マニュアル委員会総括..... | - 8 - |
| 広報・ボランティア委員会総括..... | - 8 - |
| 防災安全委員会総括..... | - 9 - |
| リーピング委員会総括..... | - 10 - |
| 人材委員会総括..... | - 11 - |



生活支援事業報告書

<児童対応>

家庭的な雰囲気を通し職員との信頼関係を大切にしながら生活を送った。児童の思いを汲み取り、発信の少ない児童への支援を会議で検討し、職員全体に丁寧な支援に取り組めるように共通認識を図った。また、児童一人ひとりが他者の事を考え、思いやりの心を育めるよう家族会議等で学期ごとの目標を設定し振り返りをするなどの取り組みを行った。児童構成で子ども間の関係性など変化が見られ、職員が介入しその都度話し合いを行うなど児童の関係性改善に取り組むことがあった。発達に偏りのある児童に対しては小児科医による医療相談やケースカンファレンスを実施し、心理士と連携し治療的な支援を行った。東京都の治療指導課を利用し外部の支援を活用する取り組みも実施した。年少児より買い物、調理実習など自立に向けた体験を行い、高齢児には職場体験や一人暮らし体験を通し自立をイメージできる体験を行った。

<家庭との交流>

児童の意向を汲み取りながら保護者へ連絡を取り、面会や外泊等が出来る児童に対しては長期休み等で交流を行った。定期的に児童の様子を報告し、写真や手紙・成績表などを送付した。家庭復帰が見込まれるケースでは保護者を取り巻く関係機関と関係者会議を行い、保護者の状況把握や児童の情報共有を行った。

<学習対応>

年齢に合わせ日々の家庭学習の時間を設定し学習習慣の定着に努めた。進学を希望する児童には塾を利用し学力向上を進めた。

<行事>

児童の希望を取り入れた行事企画を行い、協力して行事をやり遂げる経験を積めるよう取り組みを行った。施設の全体行事を再開し児童・職員が一同に集まり行事を行うことができた。

<業務方針>

日用品・衣料品等の適切な購入や在庫補充ができていた。看護師と医療連携職員を中心に漏れのないよう予防接種や健康診断を受けることができた。通院の引率については病状に合わせて生活支援員と看護師が連携し、必要に応じて複数での通院を行った。避難訓練、防災袋・設備点検は適宜実施した。初期消火訓練を行っていない月があり改善の必要があった。

<職員間連携>

引き継ぎや支援会議にて情報共有を丁寧に行い、他職種とも連携しながら児童の支援を行った。個別研修計画を作成し個々の目標を設定して振り返り等を行った。

本園

挨拶や食事、身の回りの整理整頓、睡眠など、年齢の低い児童の方が身に付いている傾向にあった。高齢児になると、起床や整理整頓、洗濯などが自発的に出来ず、衛生管理が大きな課題であった。職員の働きかけにより、少しずつ挨拶が出来る児童が増えてきた。しかし、起床時の挨拶に関しては、こちらから声を掛けても返答がない場合が多く、挨拶は課題として残る状態であった。起床時間や登校時間を守れない児童が多く、時間を守ることに關しての意識が弱かった。反対に時間を意識出来ている児童については、時間を守れない児童に対して過敏になる傾向があり、不満を抱える傾向にあった。身の回りの整理整頓や掃除、洗濯など職員と一緒にこなうことで、習慣化を目指したが、職員任せにする様子が多く見られた。入浴を嫌がる児童は職員と一緒に入浴することで、定着につながり始めた。

第一分園

会議では、時間に追われて話し合いの時間を十分に確保する事が出来なかった。引継ぎ場面でも話し合いを行うが、児童対応への漏れがある事もあり、十分な話し合いを持っていなかった。会議では、経験年数が短い職員でも積極的に意見が出ていた。コミュニケーションを大切に、全体の雰囲気をよくするよう努めた。児童に対しては、普段の様子を見ながら変化に察知し、聞き取りを行った。やってはいけない事に対して児童へ毅然とした態度で向き合い、教えていけるよう努めた。日々の生活で応援が必要な場面では他職種へ要請し、逆に要請があった場合は第一分園全体で協力体制を作った。第二分園には、低年齢児の対応もあって、地域調整、学校対応等で協力して頂く事が多かった。

第二分園

職員間のコミュニケーションにおいて丁寧な確認を行わないことで理解の相違が生まれ業務が円滑に進まないことがしばしば見られた。児童に対して受容的な関わりを大事にする一方、毅然として伝えなくてはいけない場面で回避してしまうことも少なからずあった。自立についての支援に關して、高校3年生以外の児童も年間計画をもとに対応するなど工夫が必要であった。進路支援やアフターケア及び医療連携など多職種への相談や情報共有により多角的な考えに基づいた支援を行うことができた。

第三分園

日々のコミュニケーションを大切にすることができ、チーム間の一人一人が業務を丁寧に行う事で引継ぎ漏れも少なく、円滑なチームワークを形成することが出来た半面、子どもの支援に對しての報告、連絡、相談が欠けてしまっていた。多職種との連携の機会を多く作る事が出来ず、客観的な視点から子どもを支援する事が出来なかった。こどもたちの話を傾聴する姿勢を意識し、信頼関係を築けるよう努めた。

家庭支援事業報告

保護者への家族再統合に向けた取り組みについては、保護者、児童相談所と今後の方向性や目標を共有することは、概ねできていた。

児童相談所との連絡をこまめに行い、関係者会議に参加し、保護者を取り巻く関係機関との情報共有を行った。保護者への対応については、生活担当職員と家庭支援専門相談員が中心となり、保護者に対し面会、外出、外泊、さらに学校行事への参加に働きかけは行ない、参加できる時もあった。

保護者の生活状況は、電話、面会時に確認はできていた。

児童相談所との連携は、施設、保護者の三者で連携、協力はできていた半面、ケースによっては、児相と施設の見解が違い、意志の疎通が難しかった。

長期外泊は、家庭復帰、家庭復帰見込み児童で、週末帰省を実施し、今年から食費代も支給した。

自立支援強化事業報告

各拠点で様々な特色、特性を活かした生活状況があった。年度途中の拠点間の異動に伴う生活状況の変化もあったため、一貫して自立に向けた生活を送らせることが困難であった。

一人暮らし体験を実施し、卒園後の生活を想定した訓練を行うことができた。

最終担当者に年間を通じて必要な取り組み回数を提示した。支援困難な状況に対しては外部機関への支援を交えながら状況の改善を試みた。全体会議での報告にくわえ、奨学金の案内、進捗状況の把握を行った。

自立支援計画における作成マニュアルを整備したことにより、計画書を作る労力の削減につながった。児童への提示は担当職員が変更となることがあり難しかった。スケジュールはゆとりがなかったが、見るべきところ、集約の仕方での検討会の充実は図れた。

事業の対象者数及び支援実施回数

①事業の対象者数（34人）

②支援想定回数（272回）

食生活事業報告

おいしく食べやすい食事作りに努め、児童らが順調に成長できた。桜餅やおはぎ等の手作りおやつ、ちらし寿司やもちつき等の行事食を取り入れ、季節感や家庭的な味を感じられるように工夫した。また、嗜好調査や日常生活の中で児童の声を聴き、メニューのマンネリ化予防に努めた。ご寄付や外食ご招待をとおして、児童の食に対する楽しみにつながった。治療食は、児童の体調に合わせておじや・うどん等へメニュー変更し、使い捨て容器の使用等により個別対応を行った。食物アレルギーや過度の肥満・痩せ等で個別対応が必要になった場合は、職員間での情報共有や対象児童への声掛けを行うように努めた。全国的な物価高騰による食材調達コストの増加より、予算を超過する恐れがあったが、米や野菜、寿司、うなぎ、菓子等のご寄付をいただき、予算内に収めることができた。昨夏からの配置替えによる児童の増員に伴い、一時的に調理員への負担が増大したが、現時点では勤務体制の変更により、円滑な食事提供が実施できている。また、グループホームでの調理担当者が長期間欠員している為、今後グループホームを含めた調理員の勤務体制の見直しが必要と考えら

れる。大量調理マニュアルに基づいた衛生管理に努め、毎月の細菌検査や清掃、保存食、食材の産地確認や温度管理の徹底により、食中毒や異物混入等なく安全な食事提供につながった。

心理支援事業報告

令和5年度は13名の入所児童および卒園生1名の合計14名の心理療法を実施した。概ね安定した枠組みの中で実施し心理ケアに繋げることが出来た。一方で、心理療法の枠組みを優先するあまり入所児童の生活場面での関わりが少々希薄になってしまい多面的にみた児童の見立てに課題が見られた。児童の情報共有については、月に1回心理会議を実施し各々の心理療法の現状および行動観察した児童の様子について共有することができた。それと並行して各拠点の生活支援会議に参加し他職と情報交換、情報共有して児童の支援に繋げることができた。児童相談所との連携については定期的な情報共有をして支援に繋げることができたケースがある一方で、上手く情報共有することが出来ずに各々が独り歩きしてしまうケースも見られたことは課題として残る。中3以上の高齢児を対象に自立後の精神的安定に必要と考えられる心理的居場所感について心理教育を行ない、理解に繋げた。

委員会報告

マニュアル委員会総括

1. 総括

今年度より支援委員のメンバーが、マニュアル委員会として活動を行なった。マニュアルの質の向上や、支援の統一、現状にあったマニュアルの改訂に向け、検討を重ね改訂を行ってきた。月に2回支援会議が行なわれる為、検討する機会も多く、大きな枠組みが比較的スムーズに決まり、職員会議の承認を経て改訂を行うことができた。本園とグループホームが分散化し、生活する児童の年齢や性別の構成が違う中で、支援の統一をどこまで図っていくのか、拠点の在り方を見直すことは次年度の課題となる。

2. 活動内容

| | |
|-----|--|
| 4月 | 誕生日会マニュアルの改訂 メガネやコンタクトレンズに関するマニュアルの改訂 |
| 6月 | 地域からの養護相談への対応マニュアルの改訂 養護相談受付票の策定 |
| 11月 | 公用車に関するマニュアルの作成 |
| 1月 | 児童に関する特別支出金のマニュアルの改訂 服薬に関するマニュアルの作成 アレルギーに関するマニュアルの作成 個人情報持ち出しマニュアルの作成（検討中） |
| 2月 | 総括作成・次年度方針検討 |

広報・ボランティア委員会総括

1. 総括

今年度開設の委員会であり、活動内容の確認を行った。委員会として初めて、松風通信（冬春号・夏秋号）・年賀状を作成・発行した。各拠点で施設内新聞を発行し、他拠点児童・職員との情報交換を行った。ホームページの投稿方法を委員会内で周知し、11月から更新を再開した。学習ボランティアには、前年度から継続して活動してもらった。周年冊子は次年度に持ち越しとした。

2. 活動内容

| | |
|-----|--------------------------|
| 4月 | 方針・年間活動計画確認 法人年次報告書作成 |
| 5月 | ホームページ投稿方法研修会 |
| 11月 | ホームページの更新開始 |
| 2月 | 総括作成・次年度方針検討 |

◎作成・発行したもの

| | |
|-----|--------------|
| 7月 | 松風通信（冬春号） |
| 9月 | 施設内新聞（前期） |
| 10月 | 松風通信（夏秋号） |
| 12月 | 年賀状 |
| 1月 | 施設の新しいパンフレット |
| 2月 | 施設内新聞（後期） |

◎ホームページ更新

| | |
|--------|--------------|
| 4月26日 | 新規採用募集案内 |
| 11月10日 | 松風荘ハイキング |
| 11月15日 | バザーチラシ |
| 12月2日 | バザー報告、イベント報告 |

防災安全委員会総括

1. 総括

・防災部門

通報訓練について、今年度から主な連絡ツールである LINEWORKS を使用した訓練を実施した。年度初め、新規入所児童、部屋替えの際に各防災バックの中身、備品チェックを行った。（本園・年／2回 グループホーム・年／1回）火災・地震・夜間想定 of 避難訓練を本園・分園にて行った。児童を含めた避難訓練は毎月、職員のみ of 避難訓練は奇数月毎に実施し、検証や意識付けを行った。6月に消防署協力の下、本園庭にテントを組み、煙を使った避難訓練を行った。松風荘防災の日の取り組みとして11月に災害食の炊き出し訓練を実施した。火を起こし、アルファ米、豚汁を食べた。災害時におけるBCPの改定を行った。防災食備蓄の把握に努め、委員会時に棚卸時期の確認を行った。備蓄食料の献立を本園・分園に配布し、周知した。また、防災時のメニュー表の見直しを行った。

防災備蓄品：パインみかん缶48缶、カロリーメイト60箱、アルファ米50食、さばみそ缶48缶、コンビーフ48袋、保存水180ℓ、豚汁120食分、保存用ビスコ60食分、乾パン72缶、保存用ビスケット60食分、ポカリスウェット100袋購入。

・安全対策部門

児童間の関係を把握する為、聞き取りを行い、児童相関図を作成した。作成した児童相関図を基に各部会で話し合いを行い支援に活用した。ヒヤリハットでは職員会議にて毎月出されたヒヤリハットの中から危険性が高いヒヤリハットをピックアップして全体に周知を図った。各会議にてヒヤリハットの検証を行い、事故防止に努めた。また、ヒヤリハットの年間統計を会議にて周知した。ヒヤリハットを基に施設としてのリスクマップを作成し、職員会議で周知した。

・安全運転管理者

運転免許証の確認と任意保険の加入状況の確認を行い、書類での管理を実施。また、運転管理規定の周知を行った。新任職員の公用車の使用にあたって、同乗試験を実施し、確認後に運転許可をした。運転管理簿の管理の他、各部署において公用車の洗車を月に一回行う決まりを作り、きれいに保つことが出来た。公用車の傷の確認を月に数回複数人で確認を行い、公用車の傷の状況を把握し管理徹底を行った。また公用車の事故が発生した場合は、会議の場で周知を行い再発防止に取り組んだ。

- ・事故報告

今年度事故報告件数 5件

2. 活動内容

| | |
|-----|--|
| 4月 | 方針確認・防災バッグの内容確認・ポカリスウェット・パインみかん缶消費 |
| 5月 | 通報訓練の実施 |
| 6月 | 児童への聞き取り実施・児童への聞き取りに基づく児童関連図作成・BCP研修参加・法人防災委員会定例会参加・防災アンケート実施・水の防災講座参加 |
| 7月 | 防災食購入・カロリーメイト消費 |
| 9月 | 児童関連図検証⇒職員会議で報告・防災倉庫棚卸実施 |
| 10月 | フルーツ缶消費 |
| 11月 | 福祉防災の日避難訓練実施・豚汁セット・アルファ米・飲料水消費 |
| 1月 | リスクマネジメントのマップを作成⇒会議で報告 |
| 2月 | 暴力的事故報告やヒヤリハット検証⇒養護会議で報告・総括・方針 |

リーディング委員会総括

1. 総括

- ・高齢児合宿の運営・実行

高齢児合宿では「精神的自立」をテーマに掲げ、自立に向けた講話及び自立後の社会との関わり方や精神的自立とはどのようなことを言うのかということ、講師や卒園生、担当職員が一本の軸で連続的に講義を行なうことが出来た。

- ・地域との連携、就労体験

地域の中小企業同友会の「未来種まき委員会」と連携、協働し高齢児を対象としたリアル就業イベントを通して就業体験を行なうことで、社会とのつながりを理解する体験ができた。

- ・職員内部研修の開催

生い立ち整理の研修会を希望していたが、今年度実施が出来なかった為、今後も生い立ちについて、職員内でも知識を深めていきたい為、次年度実施の方向で検討予定。

- ・委員会主催行事

小学生低学年までを対象に「まある」にておしごと体験イベントを実施した。楽しく体験することで働くことについて学ぶ機会を得ることが出来た。

中学3年生を対象に学習会を実施し、受験に対する学習意欲の向上を図った。

2. 活動内容

| | |
|----------|-----------------------------|
| 4月13日 | 方針確認・委員長選定・高齢児合宿役割決め・年間活動計画 |
| 6月25日 | ZOOMにて高齢児合宿確認 |
| 8月20、21日 | 高齢児合宿実施 |
| 11月11日 | みらたねリアルイベント実施 |
| 12月16日 | まある行事実施 |

人材委員会総括

1. 総括

個人別研修計画を経験年数の異なる職員と個々に作成し、年度末に振り返りを行った。半期ごとに進捗状況を確認する必要があった。経験年数別会議を年2回実施し施設全体としての共通認識を図った。

内規規定 SDS を新設したが利用する職員は居なかった。研修実施要綱を作成し、施設としての人材育成の指針を提示しながら個々の課題改善につながるような研修参加を勧めた。

実習生に対しては次世代の職員育成を養成するため、広く実習生の受け入れを行った。実習担当が中心となり日数や期間調整、実習評価などは各拠点の長とも協働しながら育成に努めた。

2. 活動内容

経験年数別会議 令和5年5月・令和6年2月